
土地分類基本調査

鯖江・梅浦

5万分の1

国 土 調 査

福 井 県

昭和 57 年

序 文

この土地分類基本調査は、地形、表層地質、土壌および土地利用の現況を科学的かつ総合的に調査し、土地の基本的性格を明らかにすることを目的に国土調査法に基づき実施するものです。

本県では、56年度から調査を実施しており、今回は、前回の「三国」図幅に続き「鯖江・梅浦」図幅についてとりまとめました。

今後、この成果が各種土地利用計画の策定や開発保全事業の基礎資料として、あるいはその他広く関係者に活用され、県土の有効利用の一助となれば幸いに存じます。

最後に、調査の実施にあたり御協力いただいた関係各位に対して心から謝意を表する次第であります。

昭和59年3月

福井県企画開発部長 牧野保孝

ま え が き

1. 本調査の事業主体は福井県であり、国土庁土地局国土調査課の指導を得て実施したものである。
2. 本調査の成果は国土調査法施行令第2条第1項第4号の2の規定による土地分類基本調査図および土地分類基本調査簿である。
3. 調査の実施、成果の作成機関および担当者は下記のとおりである。

総 括	福井県企画開発部地域振興課		
調 査	福井県土地分類基本調査研究会	会 長	塚野善蔵 (福井大学名誉教授)
地 形 調 査 (傾斜区分)	仁愛女子高等学校	教 諭	吉川博輔
表層地質調査	福 井 大 学	教 授	三浦 静
	〃	助教授	服部 勇
	福井県文化課	主 事	東 洋 一
土 壤 調 査	福井県農業試験場	課 長	宮松一夫
	〃	主任研究員	友広啓二郎
	〃	技 師	斉藤正志
	福井県総合グリーンセンター	研究員	上野直之
土地利用現況調査	福井県地域振興課		

目 次

総 論

I 位置・行政区画・人口	1
II 地域の概況	4
III 主要産業の概要	7
IV 交 通	14

各 論

I 地形分類図	15
II 表層地質図	25
III 土 壌 図	34
IV 土地利用現況図	47

總論

I 位置・行政区画・人口

1. 位置

「鯖江・梅浦」図幅は、福井県の中央部に位置し、東経 $135^{\circ}45'$ ～ $136^{\circ}15'$ 北緯 $35^{\circ}50'$ ～ $36^{\circ}0'$ の範囲にある。

図幅面積は、約 834Km^2 であり、そのうち陸地面積は約 420Km^2 である。

2. 行政区画

本図幅に含まれる行政区画は、図1のとおり、宮崎村と越前町の全域と武生市、鯖江市、織田町、朝日町のほぼ全域、さらに越廼村、河野村、今立町、清水町、福井市、南条町の3市6町3村である。

なお、市町村別の総面積と図幅内面積との関係は表1のとおりである。

図1 行政区画

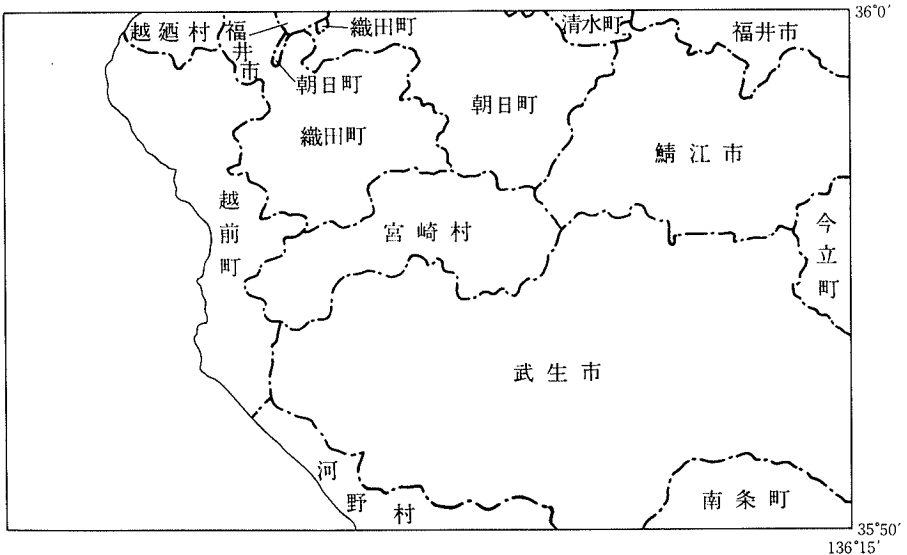


表1 図幅内市町村別面積

(単位: Km², %)

区分 市町村	図幅内面積		総面積 (B)	占有率 (A/B)
	実数 (A)	構成比		
福井市	12.77	1.5	339.22	3.8
武生市	161.02	19.3	184.98	87.0
鯖江市	59.07	7.1	84.23	70.1
今立町	8.03	0.9	45.08	17.8
南条町	13.07	1.6	345.26	3.8
河野村	12.91	1.5	50.13	25.8
朝日町	37.80	4.5	45.59	82.9
宮崎村	33.80	4.1	33.80	100
越前町	36.61	4.4	36.61	100
越廼村	5.43	0.7	14.60	37.2
織田町	37.42	4.5	39.01	95.9
清水町	2.28	0.3	42.12	5.4
陸地計	420.21	50.4	/	/
海部	413.79	49.6		
計	834.00	100		

資料：「全国都道府県市区町村別面積調「昭和56年）」（建設省国土地理院）

注：図幅内面積は、国土地理院発行5万分の1地形図から計測

3. 人口

本地域の人口および世帯数の推移は、表2に示すとおりである。

人口についてみると、昭和40年から50年では特に鯖江市で県平均を大きく上回る増加となったほか、町村部では減少傾向が多くみられた。しかし、その後の5年間をみると、朝日町、織田町、今立町では人口が増加に転じたのはじ

め、他の町村でも、増加率が伸び、また減少傾向は弱まっている。

一方、世帯数は、昭和40年から55年の間で、鯖江市、南条町等で県平均を上回る増加となっている。

本地域は、国の定住圏計画の圏域とほぼ重なり、今後も雇用機会の拡大等に伴う人口の定住化が進むものと予想される。

表2 人口および世帯数

(単位：人、戸、%)

区分 市町村	昭和40年		50年		55年		人口増加率	
	人口	世帯数	人口	世帯数	人口	世帯数	50年 /40年	55年 /50年
福井市	205,529	48,216	231,364	61,473	240,962	66,485	12.6	4.1
武生市	62,588	13,968	65,012	15,891	67,104	16,787	3.9	3.2
鯖江市	50,114	10,858	57,252	13,557	59,579	14,394	14.2	4.1
今立町	15,241	3,370	14,796	3,474	14,838	3,480	△ 2.9	0.3
南条町	5,017	1,047	5,148	1,180	5,411	1,247	2.6	5.1
河野村	3,209	730	2,552	667	2,550	661	△ 2.0	△ 0.1
朝日町	8,634	1,861	8,361	1,966	8,727	2,060	△ 3.2	4.4
宮崎村	4,005	840	4,014	888	4,049	879	0.2	0.9
越前町	9,302	2,041	8,359	1,978	8,158	2,000	△ 10.1	△ 2.4
越廼村	3,082	676	2,528	648	2,409	626	△ 18.0	△ 4.7
織田町	5,315	1,174	5,018	1,182	5,058	1,179	△ 5.6	0.8
清水町	7,731	1,617	8,608	2,008	10,141	2,336	11.3	17.8
地域計	379,767	86,398	413,012	104,912	428,986	112,134	8.8	3.9
県計	750,557	169,494	773,599	195,223	794,354	205,672	3.1	2.7

資料：国勢調査報告

注：世帯数は普通世帯数である。

Ⅱ 地域の概況

1. 概況

本地域は、地形的にみると地域の東側を占める武生盆地、西側の丹生山地さらに南部の南条山地にわかれており、各々地形の成因、あるいは地域の社会、経済なども異なっている。

福井平野の南部にあたる武生盆地は、日野川、大虫川、天王川、文室川、鞍谷川などの埋積により形成された扇状地性低地であり、稲作を中心に地場産業の繊維、眼鏡枠、また伝統的工艺品としての越前打刃物、越前和紙の製造により発展してきた地域である。近年は、都市化が進み県都福井市のベッドタウンとして、住宅団地の造成が活発に行われ、また鯖江市、武生市では大規模な工場団地が作られている。昭和51年に開通した北陸自動車道には、武生・鯖江インターチェンジが開設され、京阪神、中京、あるいは東京との動脈路として、産業、観光面等で地域の発展に大きく貢献している。また北陸新幹線建設計画では、南越駅の新設が予定されており、国の田園都市構想事業（定住圏計画の一環）等の推進と合わせて、人口の定住化、産業の高度化が進展するものと予想される。

沈降してきた武生盆地に対し隆起してできあがったのが丹生山地である。丹生山地の西側は日本海に面し、海岸線には海岸段丘ができ崖の上は県花である水仙畑となっている。この海岸線一帯は、越前加賀海岸国定公園となっており、呼鳥門をはじめとする奇勝が続く、冬場の越前ガニの味覚とも合せて、観光コースとなっている。内陸では、天王川、吉野瀬川の侵食と土地の隆起により典型的な河岸段丘ができている。南部の白山地区では、昭和47年から県営総合農地開発事業が始まり、約270haにおよぶ農地開発、区画整理が行われ、現在ではかんがい用のダムの建設をはじめ揚水場などの設備もほとんど完成し、水稲、特産の白山スイカ等を中心とした総合農地として整備が進められている。一方、宮崎村、織田町では、付近で産出する粘土を基に、カワラ焼、陶芸が古くから盛んに行なわれ、窯業の産地となっている。特に、越前焼は日本六大古窯の一つに挙げられている。

南条山地の西側は、甲楽城断層による絶壁海岸で日本海と接している。越前町の干飯崎以南の海岸線は直線状となっており、干飯崎以北の海岸線とは景観も異なっている。この辺りでは、広域林道の建設が進められている。

南条山地は、吉野瀬川をはさんで丹生山地と接しているが、地形、地質が丹生山地とは異なっている。

2. 気 象

本地域は北陸型の気候を示している。西側の海岸一帯では、冬期は積雪もほとんどなく、対馬暖流の影響もあり北西の強い季節風を受けるわりには、暖かい。一方、内陸の平野部では、盆地性の気象状況が表われ、嶺北の平野部と比較すると風は弱い、昼夜の気温差は大きくなっている。

なお、気象概況は表3のとおりである。

表3 気 象 表

(単位: °C, m.m, cm, m/s)

区分	月												統計期間	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		全年
平均気温	2.3	2.6	6.1	12.4	17.6	21.4	25.9	27.1	22.6	16.1	10.6	5.6	14.2	1941~1969
平均最高気温	5.4	6.3	10.5	17.9	22.9	26.1	30.4	32.1	27.1	20.8	15.3	9.2	18.6	
平均最低気温	-0.7	-1.0	1.7	6.9	12.3	16.8	21.4	22.1	18.1	11.5	6.0	2.0	9.8	
降水量	312	185	149	132	149	204	234	141	228	164	161	311	2,370	
最深積雪	285	239	138	2							10	236	285	1909~1969

資料: 「福井県の気候(昭和51年)」(福井地方気象台)

観測所名: 武生(武生市上太田町42の1の1)

注: 平均気温は, 平均最高気温と平均最低気温の平均である。

Ⅲ 主要産業の概要

1. 就業構造

本地域の就業構造は、表4のとおりであり、県平均と比較すると繊維産業を中心とした第二次産業の比率が高く、また農業、水産業等の第一次産業の比率も高くなっている。昭和40年から55年の推移をみると、第一次産業が減少し、第二次、第三次産業の増加が目立っている。

2. 農林水産業の概要

農業の概要は表5のとおりであり、本地域では水田が耕地の殆んどを占め、越前町、越廼村では約50%が普通畑あるいは樹園地として利用されている。農業粗生産額をみると、米の生産が大半を占め、河野村、越前町、越廼村では、畑作の野菜、果樹栽培の生産額も多くなっている。生産性では、県平均を下回る市町村が多い。

森林の概況は表6のとおりであり、森林は本地域の約70%を占めている。

樹種別にみると、武生市、南条町、河野村、宮崎村では針葉樹と広葉樹の割合がほぼ同じとなっている。人工林率は、今立町、織田町では約90%と非常に高く、鯖江市、越前町、越廼村でも県平均を大きく上回っている。また、単位面積あたりの材積をみると、本地域は県平均を上回っているが、特に今立町、鯖江市では多くなっている。

漁業の概要は表7のとおりであり、本地域の西端の日本海には、5つの漁業地区がある。越 では、イカ釣、まき網漁が中心であり、越前町北部ではイカ釣およびカレイ、エビ、カニ、キス等の底びき網漁が大半を占めている。越前町中部でも、イカ釣、まき網、底びき網が中心となっている。また、越前町南部では、まき網漁による漁獲量が大半を占め、そのほか定置網、底びき網漁が多くなっている。河野では、マグロ、ブリなどの定置網が漁獲量の約70%を占め、そのほか、イカ釣の順となっている。この5漁業地区は漁獲量で、全県の約50%を占め、本県最大の水産基地となっており、とくにイカは全県の約80%越前ガニやマグロは約70%、カレイは約60%の漁獲量を占めている。

表 4 産業別就業人口

(単位：人，%)

区分	総 数		第一次産業		第二次産業		第三次産業	
	昭和40年	55 年	40 年	55 年	40 年	55 年	40 年	55 年
市町村								
福井市	86,588 (100)	123,193 (100)	11,885 (13.7)	8,574 (7.0)	29,315 (33.9)	40,912 (33.2)	45,388 (52.4)	73,707 (59.8)
武生市	33,076 (100)	36,343 (100)	9,263 (28.0)	3,610 (9.9)	11,126 (33.6)	16,085 (44.3)	12,687 (38.4)	16,648 (45.8)
鯖江市	28,371 (100)	31,470 (100)	6,726 (23.7)	2,066 (6.6)	13,597 (47.9)	17,380 (55.2)	8,048 (28.4)	12,024 (38.2)
今立町	8,583 (100)	8,385 (100)	1,968 (22.9)	714 (8.5)	4,376 (51.0)	4,909 (58.6)	2,239 (26.1)	2,762 (32.9)
南条町	2,822 (100)	3,037 (100)	1,512 (53.6)	580 (19.1)	610 (21.6)	1,235 (40.7)	700 (24.8)	1,222 (40.2)
河野村	1,558 (100)	1,420 (100)	804 (51.6)	309 (21.8)	441 (28.3)	578 (40.7)	313 (20.1)	533 (37.5)
朝日町	4,552 (100)	4,715 (100)	1,776 (39.0)	715 (15.2)	1,571 (34.5)	2,185 (46.3)	1,205 (26.5)	1,815 (38.5)
宮崎村	2,328 (100)	2,265 (100)	1,067 (45.8)	427 (18.8)	788 (33.9)	1,182 (52.2)	473 (20.3)	656 (29.0)
越前町	3,939 (100)	4,136 (100)	1,399 (35.5)	973 (23.5)	1,220 (31.0)	1,452 (35.1)	1,320 (33.5)	1,711 (41.4)
越廼村	1,444 (100)	1,320 (100)	581 (40.2)	243 (18.4)	431 (29.9)	521 (39.5)	432 (29.9)	556 (42.1)
織田町	2,968 (100)	2,891 (100)	1,119 (37.7)	431 (14.9)	1,112 (37.5)	1,436 (49.7)	737 (24.8)	1,024 (35.4)
清水町	4,499 (100)	5,509 (100)	2,561 (56.9)	1,038 (18.8)	962 (21.4)	1,997 (36.3)	976 (21.7)	2,474 (44.9)
地域計	180,728 (100)	224,684 (100)	40,661 (22.5)	19,680 (8.8)	65,549 (36.3)	89,872 (40.0)	74,518 (41.2)	115,132 (51.2)
県 計	401,262 (100)	425,313 (100)	125,124 (31.2)	53,303 (12.5)	133,979 (33.4)	165,600 (39.0)	142,159 (35.4)	206,410 (48.5)

資料：国勢調査報告

注：分類不能の産業は第三次産業に含めた。()内は構成比。

表5 農業の概要

(単位: ha, 百万円, 千円/10a)

区分	耕地面積			農業粗生産額											生産性 10a当たり 所得				
	計	田		畑		耕					種					畜産			
		計	普通畑	樹園地	牧草畑	計	米	麦	雑穀 いも 豆	野菜	果実	その他	計	肉用牛		乳用牛	豚	鶏	その他
市町村	8,550	8,020	412	118	2	11,609	10,004	52	246	1,179	30	98	823	119	216	85	403	-	68
福井市	3,970	3,750	198	23	-	5,302	4,394	45	93	465	8	297	634	12	175	207	240	-	71
武生市	2,640	2,570	66	4	-	3,475	3,163	29	52	229	2	0	148	3	6	2	137	-	68
鯖江市	655	617	33	5	-	794	710	4	27	47	2	4	168	-	14	127	27	-	64
今立町	630	608	22	-	-	762	678	6	18	40	0	20	25	-	19	-	6	-	63
南条町	89	59	15	15	-	67	33	-	7	9	13	5	-	-	-	-	-	-	42
河野村	742	695	32	15	-	934	839	2	15	66	11	1	13	-	11	-	2	-	61
朝日町	484	441	21	22	-	564	516	0	10	32	4	2	71	9	60	-	2	-	62
宮崎村	113	47	43	23	-	84	32	0	9	19	7	17	5	-	-	-	5	-	38
越前町	76	43	13	20	-	60	31	-	2	8	4	15	-	-	-	-	-	-	39
越廼村	429	381	23	25	-	527	447	1	15	50	1	13	8	-	8	-	-	-	61
織田町	1,150	1,110	21	9	12	1,475	1,388	4	22	57	3	1	65	3	62	-	-	-	65
清水町	19,528	18,341	899	279	14	25,653	22,235	143	516	2,201	85	473	1,960	146	571	421	822	-	59
地域計	49,800	45,400	3,370	778	279	65,197	54,350	569	1,302	6,775	672	1,529	8,322	872	2,262	1,299	3,885	4	69

資料: 「福井農林水産統計年報(昭和56年)」(北陸農政局福井統計情報事務所)

注: 生産性の地域計は, 各市町村の生産性の平均である。

表6 森林の概況

(単位：ha, %, 千m³)

区分 市町村	総面積	国有林・民有林別		民有林内訳				人工 林率	蓄積量 (材積)
		国有林	民有林	針葉樹	広葉樹	竹林	無立 木地 等		
福井市	16,659	60	16,599	11,558	4,748	234	59	65.8	2,244
武生市	11,220	—	11,220	6,108	4,933	142	37	48.8	987
鯖江市	3,201	—	3,201	2,557	590	21	33	78.3	547
今立町	3,096	48	3,048	2,705	299	6	38	89.6	551
南条町	4,099	342	3,757	1,839	1,888	4	26	43.8	279
河野村	4,662	16	4,646	2,190	2,319	45	92	43.2	368
朝日町	3,130	—	3,130	1,882	1,179	65	4	61.1	307
宮崎村	2,362	—	2,362	1,234	1,053	71	4	49.9	238
越前町	2,939	105	2,834	1,898	875	5	56	67.9	304
越廼村	1,181	—	1,181	730	338	12	101	67.9	95
織田町	2,909	—	2,909	2,507	340	55	7	87.6	261
清水町	2,209	—	2,209	1,355	752	98	4	62.5	171
地域計	57,667	571	57,096	36,563	19,314	758	461	63.9	6,352
県計	311,719	38,393	273,326	121,416	142,893	1,432	7,385	40.6	25,688

資料：福井県林業統計書（昭和55年）

表7 漁業地区別・種類別漁獲量

(単位：t)

種類 地区	総数	底び き網	まき 網	刺網	釣	はえ 縄	定置 網	ひき 網	採貝 採藻	その他
越 廻	2,480	—	1,060	88	1,084	15	156	2	48	27
越前町 北 部	1,915	763	—	18	1,035	1	2	5	76	15
越前町 中 部	9,543	1,715	3,301	4	3,926	83	362	0	126	26
越前町 南 部	1,635	242	838	3	91	—	269	0	66	126
河 野	1,022	—	—	31	169	6	706	—	85	25
地域計	16,595	2,720	5,199	144	6,305	105	1,495	7	401	219
県 計	30,860	8,256	7,125	706	6,958	842	4,933	122	1,123	795

資料：福井農林水産統計年報（昭和56年）

3. 商工業の概要

商業の概要は表8のとおりであり、本地域は食料品、衣服等の小売業が大半を占め卸売業は、衣服、食料品関係が中心となっている。売場面積1m²あたりの年間販売額をみると、本地域は全県の約35%の水準となっている。

工業の概要は表9のとおりであり、製造品出荷額から本地域の特徴をみると、武生市では一般機械、繊維、化学の構成比が高く、鯖江市では精密機械、繊維、化学が、今立町では繊維、化学が、南条町では繊維、木材が、朝日町では家具、繊維が、宮崎村では電気機械、窯業・土石が、越前町では食料品、木材が、越廻村では食料品が、織田町では非鉄金属、窯業・土石の構成比が各々高くなっている。

表8 商業の概要

(単位:店, 人, m^2 , 億円, 万円/ m^2)

区分 市町村	商店数				従業者 数	売場 面積	年間 販売額	1 m^2 あた り年間 販売額
	総数	卸売業	小売業	飲食店				
福井市	5,703	1,456	4,247	1,461	31,267	269,170	11,408	424
武生市	1,688	367	1,321	329	6,602	79,682	1,183	148
鯖江市	1,018	153	865	157	3,643	54,710	638	117
今立町	321	47	274	25	949	11,330	168	148
南条町	71	—	71	9	180	2,491	17	70
河野村	58	—	58	12	88	1,398	5	38
朝日町	128	4	124	19	346	5,984	28	47
宮崎村	42	—	42	7	85	2,091	7	32
越前町	182	12	170	24	385	5,393	38	70
越廼村	53	1	52	10	82	1,518	4	25
織田町	84	2	82	16	183	3,912	27	69
清水町	118	9	109	5	290	4,600	24	53
地域計	9,466	2,051	7,415	2,074	44,100	442,279	13,547	306
県計	16,359	2,707	13,652	3,362	67,329	750,871	16,566	221

資料: 福井県の商業(昭和54年)

表9 工業の概要

(単位：所，人，ha，億円， m^3)

区分 市町村	事業所数	従業者数	敷地面積	製造品 出荷額等	1日あたり 用水量
福井市	2,130	27,048	318.3	3,101	137,351
武生市	831	13,522	190.5	1,839	70,797
鯖江市	1,906	15,550	242.2	1,711	133,583
今立町	487	3,258	32.1	323	7,997
南条町	36	365	12.4	28	x
河野村	4	47	0.2	3	—
朝日町	149	1,303	27.0	133	1,528
宮崎村	52	744	12.3	56	x
越前町	41	317	1.1	16	x
越廼村	23	197	0.1	14	—
織田町	89	873	9.7	84	178
清水町	90	579	7.5	45	x
地域計	5,838	63,803	853.4	7,353	351,434
県計	10,305	110,783	1,757.3	12,864	965,272

資料：福井県の工業および地域振興課

注：1日あたり用水量は30人以上の事業所のデータである。

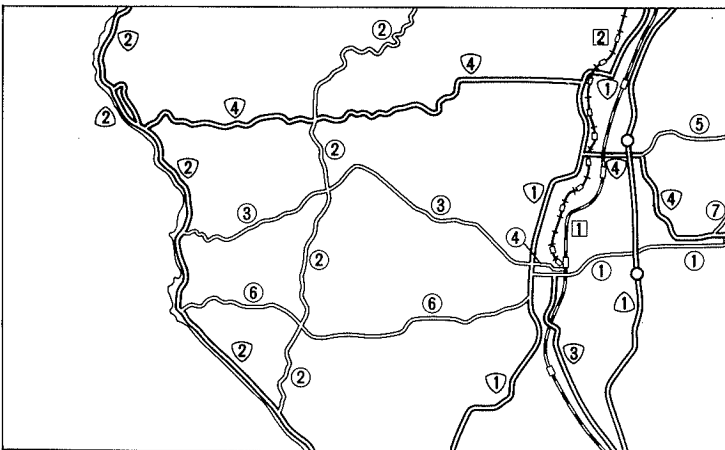
xは、公表不可のデータである。

Ⅳ 交 通

本地域内には、新潟市から京都市を結ぶ国道8号線のほか3本の国道が通っている。また、地域内には、北陸自動車道（米原～滑川）が走り、武生、鯖江インターチェンジが開設されており、本県の産業、観光、流通面等を推進する大動脈として、交通のネットワークの一端を担っている。また、丹生山地では、南北に縦断する広域基幹林道の工事が進められ、一方平野部では、広域農道の建設が進むなど、農林業の基盤整備が図られている。

- | | |
|---|--|
| <p>▽ 国道 8号</p> <p>▽ // 305号</p> <p>▽ // 365号</p> <p>▽ // 417号</p> <p>△ 高速自動車国道 北陸自動車道</p> <p>△ 有料道路 越前海岸有料道路</p> <p>① 主要地方道 武生大野線</p> <p>② // 福井大森河野線</p> | <p>③ 主要地方道 武生越前線</p> <p>④ // 武生停車場線</p> <p>⑤ // 鯖江美山線</p> <p>⑥ // 武生米ノ線</p> <p>⑦ // 福井今立線</p> <p>① 国鉄 北陸本線</p> <p>② 私鉄 福武線</p> |
|---|--|

図2 主要交通網



各 論

I 地形分類図

1. 地形概説

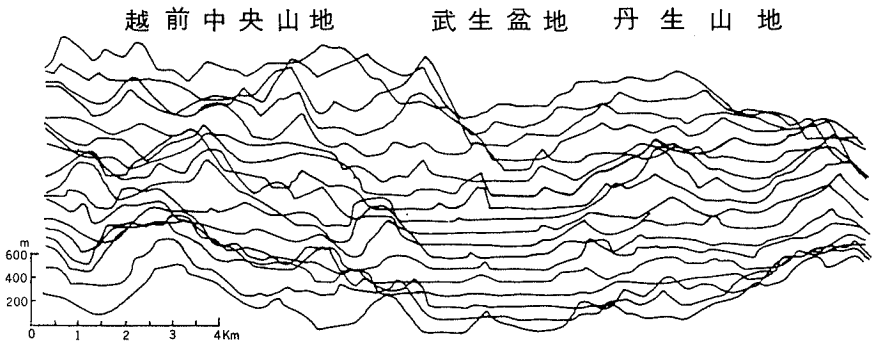
本地域は、福井県嶺北地域のほぼ南西部にあたり、丹生山地・南条山地・武生盆地などからなる。

丹生山地は、吉野瀬川断層（武生盆地南縁 - 広瀬 - 勝蓮花 - 千合谷 - 高佐）より北側一帯の山地をいう。山地の西側は、日本海に急な撓曲崖をもって臨み、隆起の過程において形成された海食崖が続いている。また海岸段丘がみごとに発達している。丹生山地の分水界は、西側（日本海側）に偏在し、越知山（612.8 m）・城山（513 m）・若須岳（564.1 m）などの山稜が南北に並び、西側に高く、東側は200～300 mの山稜で低くゆるやかに傾斜し武生盆地に接する（図1参照）。丹生山地の中央部には、千合谷付近に水源を発する天王川が複雑な流路をとっており、段丘が発達している。

南条山地は、吉野瀬川断層より南側の山地で、平均高度600 mの定高性の山地である。本地域の南条山地には、日野山（794.6 m）・矢良巢岳（472.7 m）・金華山（397.8 m）がそれぞれ分布している。

武生盆地の北東部には、越前中央山地の西縁部の一角がみられ、文珠山（360 m）をはじめ、丹波岳（290 m）・橋立山（261.3 m）のピークがある。この越

図1 武生盆地の地形断面投影図



前中央山地は、越美山地・大野盆地・九頭竜川・武生盆地に囲まれ高度 500 m 前後の低平な山地である。

武生盆地は、武生市と鯖江市に広がる東西約10km、南北約13kmのほぼ四辺形をした典型的な沈降盆地で、平地と山地の境が明瞭である。複雑な出入を示す山麓線と平野面に屹立する大小の孤立丘陵はそのことを示している。盆地の地形は、日野川・文室川・吉野瀬川・大虫川などによって形成された扇状地と氾濫原からなっている。また盆地北部には、南北に細長くのびた鯖江台地があり、地形発達の上で複雑な要素を加えている。

2. 地形各論

(1) 山地・丘陵

山地の分類は、次の基準に従って分類した。

地形の分類		定義
大分類	小分類	
山地・火山・丘陵地	山頂緩斜面	山地・火山地・丘陵地の山頂部や尾根部で表面傾斜が15度未満の緩斜面、平坦面または小起伏面
	山腹・山麓緩斜面	山地・火山地・丘陵地の中腹もしくは山麓部にあつて、表面傾斜が15度未満の緩やかな斜面
	一般斜面	山地・火山地・丘陵地に普遍的に発達する斜面で、表面傾斜15～30度の斜面
	急斜面	山地・火山地・丘陵地の表面傾斜が30度以上の急斜面または崖

丹生山地の場合、前述したように急斜面が海岸側に多く分布しているのに対し、中央部および東側は緩斜面が多く分布していることが分類図からも分る。一方南条山地では、海岸に沿う甲楽城断層崖の部分で急斜面が細長く分布し、その地形的特色をよくあらわしている。また金華山の南西部一帯に緩斜面が集

中しているが、これは岩質（変朽安山岩質火砕岩・凝灰角礫岩）を反映しているものと考えられる。

ここでいう丘陵は武生盆地内に点在する孤立山地をさしている。その主なものは、村国山（239 m）・三里山（334.2 m）・経ヶ嶽（182.1 m）・長泉寺山（112.6 m）などである。これら孤立山地は、周辺部の山地と同じ地質から成っていることから、盆地形成以前は恐らく越前中央山地から丹生山地に続く一連の山地で、晩壮年期ないし壮年期の山容を呈していたものと考えられる。

(2) 台地・段丘

ア 海岸段丘

丹生山地の北縁部の海岸沿いに、波食をうけた基盤岩の上に厚さ10~15 mの砂層をのせた段丘が発達している。宿・新保・小樟・道口・茂原・白浜・高佐付近の段丘は、幅は狭く、傾斜は海側にやや急である。これらの段丘より高い段丘面は、居倉から梅浦にかけ分布しており、その高度は80~120 mである。この段丘面は、侵食が進み断片的に分布している。ここでは前者すなわち宿から高佐付近に分布する段丘を低位面、後者すなわち居倉から梅浦にかけて断片的にみられる段丘を高位面とした。

イ 台地

この地形面は、形成過程からみて河岸段丘に属するが、面をもたない“段丘”で現地形は丘陵的性格を呈している。現地形は、起伏が大きく侵食され小谷が多い。段丘高位面との関係は、おおむね緩斜面で移行し、その境が不明瞭な部分が多い。この地形面の最高位は神土付近で標高210 m、最低位は西田中付近で標高50 mである。その高度差は約160 mにも達している。このことから、この地形面が形成されたのち、丹生山地の西側が東側よりも高く上る傾動的地塊運動があったものと解される。構成物質は、砂質性シルト・粘土質砂を主体とし、礫は一般に少ない。その礫質は、花崗岩や流紋岩で、淘汰の悪いくさり礫が多い。堆積物の層厚は、平等で30~40 mと最も厚く、鶺鴒平で3~4 mとうすく、平均14 mほどである。この面を檜津面と称する。

ウ 河岸段丘

段丘は、地形発達・構成物質・性状などから高位面と低位面にわけた。

(イ) 段丘高位面

吉野瀬川上流では、比較的侵食が進んでいるが、織田付近ではかなり平坦な地形面となっている。この地形面と下位面との間は明瞭な崖で境されているところが多い。この段丘面の高度をみると、丸岡付近で標高158mで最高位を示し、織田付近で標高120mで最低位となっている。構成物質は、高位面より礫は多いが、礫層の厚さは平均3~4m程度で比較的うすい。礫質はチャート礫が普遍的で、花崗岩や流紋岩礫が混在している。'全体的に新鮮な礫が多い。層厚は下河原付近で10~15mと最大で、織田付近では約3mと最小であり、平均8m程度である。

武生盆地の北部にある鯖江台地は、一般に南に高く標高30m、北に低く標高15mを示している。沖積面との比高は、台地の東縁で13~18mで、明瞭な崖となっている。これに対し台地の西縁は、一部を除き、沖積面との比高は殆んどなく、その境は不明瞭である。この台地は砂礫台地で、最上部に礫層がみられ、いずれも礫は新鮮であり現河床礫とあまり差はない。この礫層は台地上に一樣に分布せず、ほぼ台地中央部付近に標式的にみられる。この付近では新旧礫層が重なり、旧礫層は亜角礫にとみ風化の程度も著しい。両者の間には不整合がみられる。堆積物の特色から、この台地は丹生山地にみられる段丘高位面と対比される。

(ロ) 段丘低位面

この地形面は、全体的に平坦で、しかも殆んど侵食されていない。天王川流域に小規模ながら連続的に分布しているが、他は散在的に分布している。この段丘面の標高をみると、陶芸村の北側で120mで最高位を示し、青野付近30mで最低位となっている。堆積物は、チャート礫を主とし、花崗岩礫も含まれている。チャート礫は、段丘低位面の場合、段丘高位面から洗い出されて再堆積したものであろう。一方、武生盆地の周辺部にもこの種の地形面がみられる。

(3) 低地

低地は、谷底平野・扇状地・氾濫原・自然堤防などに分類した。

ア 谷底平野

谷底平野には、各幅の広いものと狭いものがある。前者の例として日野川

本流に沿う部分、後者の例として丹生山地内の河谷にみられる部分がそれである。

日野川本流沿いの谷底平野Ⅰの地表面は、かつてはかなりの凹凸があったが、現在では土地区画整理がすすみ平坦化した。その結果微地形の判別はやや困難になったが、ボーリングステッキで地表面より1メートル前後の土壌を調べてみると、砂・小礫・粘土などが交互に分布していることから、日野川が乱流したこん跡がみられ、氾濫原的性格が強い地形面である。

丹生山地内にみられる谷底平野Ⅱは、天王川や吉野瀬川などが山地や段丘を侵食してできた侵食谷の部分が多い。谷底平野Ⅱの一部は、丹生山地内の中央部を南北方向に発達している。この部分は、古天王川の本流が南から北へ流れていたところにあたるが、段丘低位面が形成されたあと、この地形面を侵食するかたちで形成されたものである。吉野瀬川沿いの谷底低地は、吉野瀬川断層に沿って発達している。ここでも段丘面を切って形成されている。このように段丘面を切って形成された谷底低地として、越知川・天王川流域にもみられる。一方中津原にみられる谷底低地は、洪積層の部分が殆んど侵食によって運び去られ、堆積前の原面があらわれたかたちになっている。左々生・蟬口・八田にみられる谷底低地は、山地の沈降によって形成された部分に、形成されている。

イ 扇状地

扇状地は、その形状や傾斜などを考慮して扇状地ⅠとⅡに分けた。

(ア) 扇状地Ⅰ(急)・崖錐

吉野川・大虫川・文室川などによって形成された扇状地や、文珠山・三里山・日野山など山地および丘陵地の山麓に形成されている緩傾斜面もこの種の地形に含めた。この地形の傾斜は扇状地Ⅱより急である。

吉野瀬川や大虫川によって形成された扇状地を大虫扇状地と呼んでいるが、その大部分は、中・上流域の段丘堆積物とともに洪積層に属し、扇頂部および扇端部のごく地表面に近い部分は沖積層からなる。

文室川によって形成された味真野扇状地の堆積状態は複雑で、文室川をはさみ左右に旧堆積物(洪積物)が、文室川に沿う部分に新堆積物(沖積層)がそれぞれ堆積している。このことから、味真野扇状地は、はじめ旧扇状地の部分

が形成され、その後一部侵食されその上部に新扇状地が形成されたものと解される。この扇状地の東側の扇側部が弓状になり、約 2.3 m ほどの小崖をもって氾濫原に移行しているが、これは鞍谷川が扇状地の一部を侵食したものである。

孤立丘陵の一つである三里山の西麓にみられる斜面は、崖錐的性格をもった地形面である。山麓より離れるに従って礫径が大きくなり、ややふくらみのある地形面となっている。この地形面では、過去に破壊をともなう被害が起っており、耕地流出もみられる。

(イ) 扇状地Ⅱ（緩）

主として日野川の堆積作用によって形成された扇状地である。盆地南部の行松付近を扇頂に、鯖江付近まで発達している。地下水の流れ・堆積物質・地形の形態から、この地形は氾濫原的性格をもった扇状地といえる。日野川左岸一帯と扇頂部付近の右岸一帯は、侵食相と堆積相とが交さくしており、侵食部分はほぼ旧河床にあたる。堆積物は、2～3 cm の小礫と砂である。これら堆積物は日野川左岸に比較的厚く堆積している。ボーリング資料によると、基盤は、右岸の方が浅く、左岸の方が深くなっている。この点からも、左岸の方が堆積量が多かったものと考えられる。

ところで、この扇状地の東側（日野川右岸）で、各等高線が南へ折れ曲り、等高線の異常が認められる（図2参照）。この高度変位帯に沿って湧水がみられるなど、地形的にやや複雑な要素をもっている。

ウ 氾濫原

鯖江台地をはさんで、東西に広がるほぼ標高20 m 以下の低地を氾濫原とした。天王川と日野川との河間地帯は、一般に低く低湿な地形でデルタ的性格をおびた地形面も含まれている。ところで、この地形面における水害はかなり複雑である。まず浅水川・天王川・和田川・吉野瀬川が日野川にそれぞれ合流する付近では、日野川の高水がこれらの河川に逆流して遊水氾濫をもたらしめている。一方用排水河川の氾濫による内水災害も目立つ。このような内水災害は昭和40年以降特に新興住宅地域で著しい。今までの水害多発地帯は、日野川・天王川・和田川の三川合流地帯、日野川と吉野瀬川の合流地帯・鞍谷川と浅水川の合流地帯などである。

図2 武生盆地の地盤高図

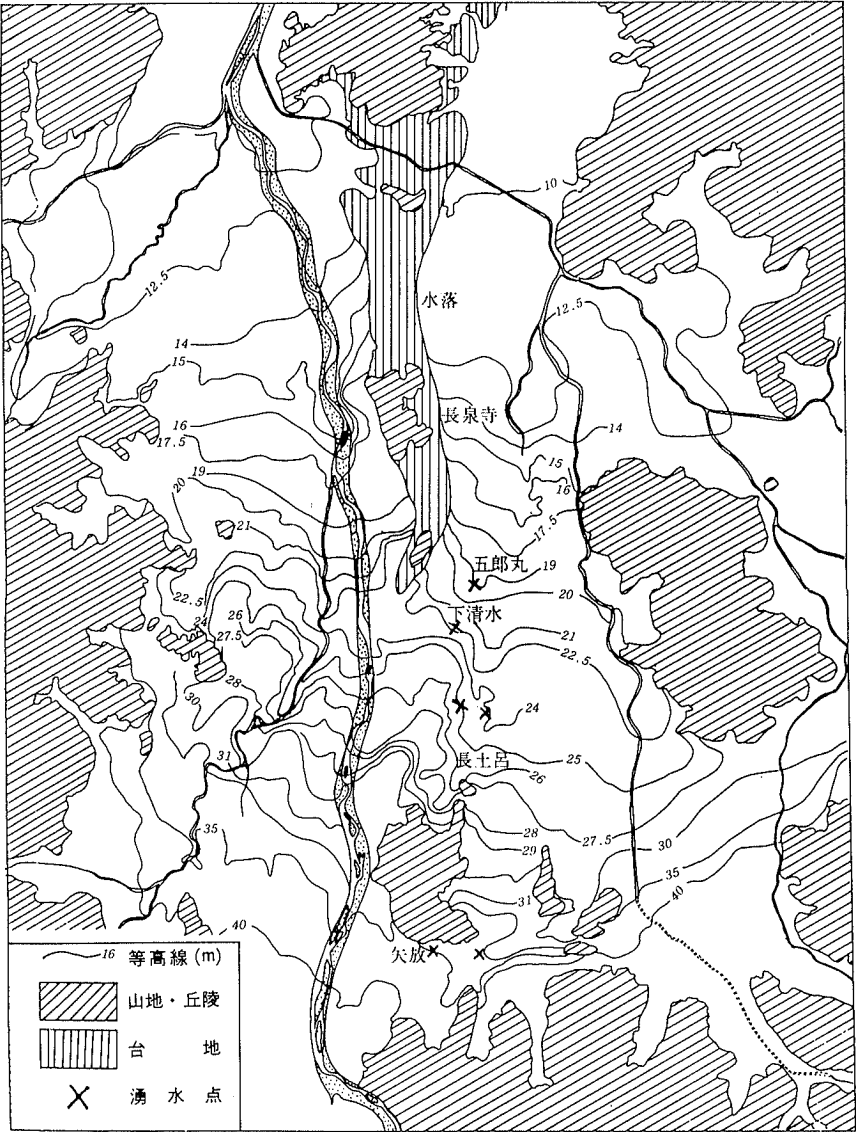


図3 水害危険地域図

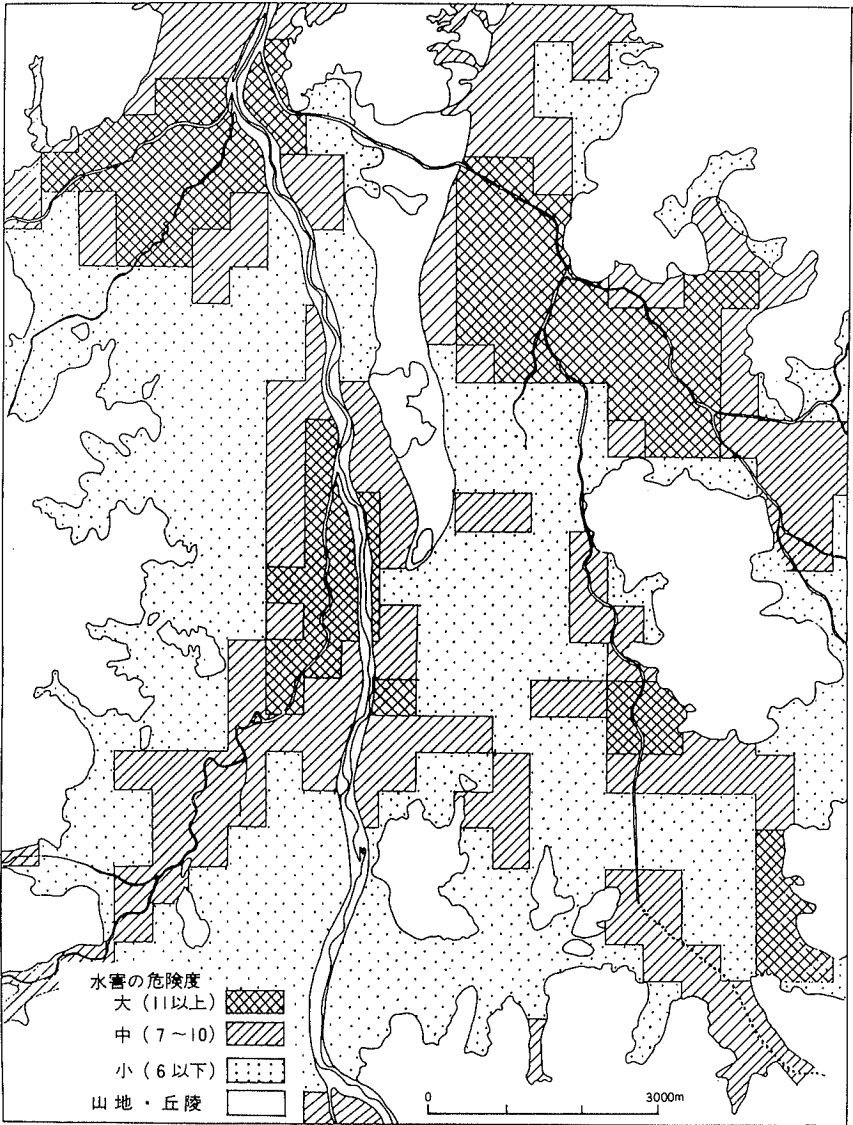


表1 水害危険地域を推定するための基準とその指数
(平野・盆地を中心とした場合)

〔地形条件〕

地形型	指数
谷底平野(幅のごくせまいもの)・天井川沿いの微高地 旧河道(谷底平野・氾濫原にあるもの)・三角州・後背湿地	4
旧天井川の微高地・谷底平野・氾濫原・洪水堆積地 旧河道(扇状地にあるもの)・台地および段丘上の凹地と浅い谷・自然堤防(三角州にあるもの)	3
段丘化した扇状地・沖積段丘・扇状地・扇状地性低地・自然堤防	2
山麓緩斜面・小起伏の丘陵地・やや開析された台地と段丘	1

〔水害発生頻度〕

(明治以降を中心)

発生回数(回)	指数
20以上	5
10～19	4
6～9	3
2～5	2
1	1
発生なし	0

〔被害内容〕

被害内容	指数
家屋・田畑の流出	3
床上・湛水被害	2
床下・冠水被害	1
被害なし	0

エ 後背湿地

三里山周辺は、標高20～25mであるが、かなり低湿でシルト性の堆積物が多い。特に、三里山南部にみられる後背湿地では、黒ボクを含んだシルト性堆積物が堆積している。

オ 自然堤防・旧河道

微高地の1つである自然堤防は、特に氾濫原に多い。日野川左岸では、天王川に沿った部分に、右岸では、鞍谷川や文室川に沿う部分にみられる。日野川左岸の下野田・当田・熊田・川去・小泉の各集落をのせている地形面は、微高地である。これら自然堤防・微高地は砂質土壌でおおわれている。

旧河道は、扇状地Ⅱに多く、扇頂部付近の向新保付近から村国山南部をって北東方向に、あるいは松森町付近から北方向へ、また万代橋から右岸の爪生へ向ってそれぞれみられる。これら旧河道は、日野川が乱流した痕跡と考えられる。旧河道には砂質性シルトが多い。

3. 武生盆地の水害

明治以降この地域に発生した水害をもとに、地形条件と水害発生頻度それらに被害内容を指標として、水害危険地域を推定すると図3のようになる(図3参照)。また水害危険地域図を作成するための基準と指数は表1に示した。

水害の危険大なる地域として、鞍谷川流域・吉野瀬川下流域・浅水鞍谷合流域・日野川・天王川・和田川・浅水川合流域があげられる。浅水鞍谷川合流域は逆流・溢流・下水の氾濫による水害がそれぞれ発生しやすい。

参 考 文 献

吉田森・吉川文次・宮越栄蔵(1939)：越前丹生山地の地形(I) 地理教育
Vol. 30 No. 6

塚野善蔵・三浦静(1954)：福井県丹生山地の新第3系について(第1報)
福井大学学芸学部

桑原正見(1962)：武生・鯖江盆地の地形，資源研彙報

福井県(1965)：福井県水理(地下水)地質図説明書

塚野善蔵（1966）：越前海岸の地形と地質，日本自然保護協会調査報告
第26号

吉川博輔（1981）：武生盆地の微地形と水害 日本地理学会予稿集18

小村良二（1981）：福井県丹生山地，天王川上流域の水系変化
—— 河岸段丘による検討 ——
地質調査新月報 Vol. 33 No. 3

Ⅱ 表層地質

この図幅地域には、基盤岩石（古期花崗岩、中・古生層、新期花崗岩など）を被って新第三系が広く分布する。また、天王川・吉野瀬川などの中・上流域及び武生盆地内には表成堆積物（第四系）が発達する。なお、新第三系は主として火山岩及び火山性碎屑岩から構成されており、糸生累層として一括される。これは6つの火山岩層に分けることができる。その最下部は、丹生山地の南部で、中生代末の面谷流紋岩類及びそれに貫入した新期花崗岩（古第三紀）の上位に不整合にかさなる。

次に、地表に分布する各岩石を細分し、岩石区分と地層との対応を表1に示す。

1. 未固結堆積物

1-1 泥がち堆積物 (*m*)

概括的にみて、鯖江-武生付近の表成堆積物は扇状地性及び三角州性堆積物に大別できる。特に鯖江台地の東側低地一帯には、湿地埋積地形が特徴的であり、泥がち堆積物が厚く発達する。これはいわゆる上部粘土層（沖積層）に相当し、層厚10m内外で広く分布する。

1-2 礫がち堆積物 (*g*)

とくに、鯖江台地の西側から、武生盆地の南部にかけては、顕著な砂礫層が概して深度10~20mまでに発達することが多く、その表面は氾濫原的地形を呈しており、その分布範囲は比較的明瞭である。

1-3 碎屑物 (*d*)

海岸よりの地域では、崩壊ないし地すべり性の堆積物がみとめられ、地形的にも特異性があるので、これらを一括表現した。海岸沿いの山脚部で海成段丘礫層を被ふくする崖錐堆積物がしばしばみとめられるが、規模も小さく省略した。

1-4 礫質堆積物 (*t₃*)

この堆積物は、河成の低位段丘群を構成しており、丹生山地内では河谷に沿って断続的に分布する。多くは諸河川の中流以下に分布するが、その規模はいず

表 1 表層地質「梅浦・鯖江」図版層序表

時 代		岩石区分 (記号)	地 層		
新 紀 生 代	第 四 紀	完 新 世	泥がち堆積物 (<i>m</i>)	沖 積 層	
		礫がち堆積物 (<i>g</i>)			
		碎 屑 物 (<i>d</i>)			
		更 新 世	礫質堆積物 (<i>t₃</i>)		低位段丘礫層及び旧扇状地礫層 } 「洪積層」
		礫 ・ 砂 (<i>t₂</i>)	中位段丘礫層		
		礫・砂・泥 (<i>t₁</i>)	高位段丘礫層 (宿堂層)		
	新 第 三 紀 (中 新 世)	安山岩質岩石 I (<i>Am₁</i>)	国見岳安山岩類	} 糸生累層	
		礫 岩 (<i>Cg</i>)	深 谷 層 (国見累層)		
		凝灰質岩石 I (<i>Tf₁</i>)	足 羽 山 層		
		安山岩質岩石 II (<i>An₂</i>)	大矢火山岩層		
		凝灰質岩石 II (<i>Tf₂</i>)	糸生湖成層		
		安山岩質岩石 III (<i>An₃</i>)	布ヶ滝火山岩層		
		安山岩質岩石 IV (<i>An₄</i>)	横山・三尾野・笹川火山岩層		
		流紋岩質岩石 I (<i>Rh₁</i>)	西谷流紋岩類		
中 生 代	花崗岩質岩石 I (<i>Gy</i>)	新期花崗岩類	}		
	流紋岩質岩石 II (<i>Rh₂</i>)	面谷流紋岩類 (濃飛流紋岩類)			
	礫岩・凝灰岩・頁岩 (<i>sts</i>)	足 羽 層			
	花崗岩質岩石 (<i>Go</i>)	古期花崗岩類			
	斑紋岩質岩石 (<i>Di</i>)				
中 ・ 古 生 層	頁岩がち砂岩・頁岩互層 (<i>sh-alt</i>)	} 「中・古生層」			
	砂岩がち砂岩・頁岩互層 (<i>ss-alt</i>)				
	輝緑凝灰岩 (<i>Sc</i>)				
	チャート (<i>Ch</i>)				
	石灰岩 (<i>L</i>)				

れも小さい。現河床との比高は10m程度で、角礫～亜角礫にとみ、現河床礫の礫径・礫種に類似すること多く、極めて新鮮である。また、山地の山脚部には旧扇状地礫層がしばしばみとめられ、両者を一応一括して表現した。

2. 半固結堆積物

2-1 礫・砂 (t_2)

これには海成段丘堆積物及び山地内に分布する河成段丘堆積物とがみとめられる。諸河川の中流以上に分布する中位段丘堆積物は一般に層厚5～8m程度の薄いもので、砂礫からなることが多いが、礫種として下位の基盤から由来したものの外にチャートの大礫～巨礫が目立っている。宮崎村江波付近では、高位段丘構成層との関係が、特によく観察できる。また、海成段丘の場合は、越前町梅浦以南によく連続してみとめられ、層厚5～10m程度の、主として砂礫から構成される。

2-2 礫・砂・泥 (t_1)

この堆積物は、海拔おおむね200m以下の、開析の進んだ、丘陵状の地形を呈する高位段丘を構成する。「福井」図幅ど宿堂層とされたものに相当する。主として砂礫層・泥層（時に含植物化石）からなり、最大層厚は40～50mに達する。丹生産地の東縁部では、海拔100m以下に分布し、朝日町西田中付近では平野側へ20°内外傾斜する傾向を示す。湖沼性環境を示す青色泥層は、盆地地下で卓越するが、山地内では扇状地性の砂礫層が発達する。この礫層中には、一般に拳大のチャート礫が多い。これは現天王川水系が成立する以前の旧河床礫で、はるか南方の中・古生層分布地に起源をもつものである。その時代は中期更新世と推定しうる。また、海成段丘の場合、砂層を主としており、梅浦北方付近に分布がみとめられる。

3. 固結堆積物及び火山性岩石

3-1 安山岩質岩石 I (A_{n_1})

この岩石は、図幅北西部、赤坂東方で礫岩層（国見累層）を貫き、小岩体として分布する。これは暗緑色を呈し、斜長石・輝石の斑晶をもつ輝石安山岩で

ある。

3-2 礫岩 ($C\vartheta$)

これは国見累層の最下部(深谷層)に相当し、全体に礫岩が極めて優勢な部分である。主な礫は下位にくる糸生累層の各種安山岩から構成され、きわめて円磨度の良い中〜巨礫で、礫岩中には、しばしば砂岩層を挟み、稀に凝灰岩もみとめられる。

3-3 凝灰質岩石 I (Tf_1)

「福井」図幅で足羽山層とした地層に相当する。主として流紋岩質の火山碎屑岩からなり、下部には安山岩及び同質火山碎屑岩を伴う。一部に、溶結凝灰岩、凝灰質砂岩などを挟む。

3-4 安山岩質岩石 II (An_2)

この岩石は、大矢火山岩層(糸生累層)と呼ぶ地層に相当する。六所山〜越知山付近の高所に広く分布する。主として黒色緻密な玻璃質安山岩からなり、部分的には角礫状を呈する。(水中自破砕溶岩)

3-5 凝灰質岩石 II (Tf_2)

これは糸生湖成層と呼ぶ地層に相当する。一般に著しく層理が発達した凝灰質砂岩・泥岩及びその互層からなり、朝日町上糸生では、コイ科の淡水魚類・昆虫化石を産する。「福井」図幅内からは阿仁合型植物群を示す植物化石も報告されている。

3-6 安山岩質岩石 III (An_3)

これは布ヶ滝火山岩層と呼ぶ地層に相当する。特に、鯖江市三床山周辺、三里山付近に、その分布が広い。一般に、塊状の火山礫凝灰岩〜凝灰角礫岩、石英安山岩質の溶結凝灰岩を特徴とする。一部にピッチストーンを伴うこともあり、三里山の北西部では現在石材(新庄石)として採石されている。

3-7 安山岩質岩石 IV (An_4)

これは笹川、三尾野及び横山各火山岩層を一括した地層に相当する。図幅南西部、武生盆地東方に広く分布する。主として輝石安山岩、斜長石の巨晶を特徴とした玄武岩質安山岩、角閃石安山岩など及び同質の火山碎屑岩からなり、岩相変化が複雑である。

3-8 流紋岩質岩石Ⅰ (Rh_1)

これは西谷流紋岩類と呼ぶ地層に相当する。特に、図幅南部にある矢良巢岳西側で分布がやや広い。特徴のある赤紫色～赤褐色の流紋岩及び同質の火山砕屑岩からなる。その噴出時期は中新世早期頃と推定される。

3-9 流紋岩質岩石Ⅱ (Rh_2)

これは面谷流紋岩類(濃飛流紋岩類)と呼ばれるものに相当する。越前町付近、鬼ヶ岳一帯、日野山付近に広く分布する。流紋岩質の溶結凝灰岩で代表され、一部で成層構造を示すことがある。城山西方などでは球顆状構造を示し、新期花崗岩との境界部では、しばしば陶石化作用を受けている部分を見とめる。

3-10 礫岩・凝灰岩・頁岩 (gts)

この区分に相当する地層は足羽層である。主として日野山の東側に分布し、大虫、千合谷、茂原でも小範囲に分布する。多くは径数 cm 以下の円礫を含む礫質堆積物で、粗粒砂岩、頁岩がはさまれる。頁岩は時に黒色を呈する。また、礫にはチャートが多く含まれる。

3-11 頁岩がち砂岩・頁岩互層 ($sh-alt$)

3-12 砂岩がち砂岩・頁岩互層 ($ss-alt$)

この付近の中・古生層の主たる構成岩石は砂岩及び頁岩である。両者は互層している場合が多く、その量比によって、砂岩がち互層と頁岩がち互層に区分した。砂岩は、一般に細～中粒のワッケ質砂岩であり、石英・斜長石の外に、しばしば火山岩岩片を含む。上小松から南にかけて比較的粗粒・塊状なものが散在する。また、頁岩は一般に黒色を呈し、大小種々の偽礫が含まれる。しかし珪質な部分は白色～緑色で、比較的均質である。よわいへき開が発達して、一見千枚岩状を呈する部分もある。

3-13 輝緑凝灰岩 (Sc)

都辺から中津原にかけて本岩が顕著に分布する。この他、小ブロック状又はレンズ状の岩体が多数存在する。主に玄武岩質の枕状溶岩・凝灰岩からなり、緑色を呈するが多いが、稀には赤紫色を呈する。

3-14 チャート (Ch)

白崎を通り、北西～南東方向にのびる岩体を除くと、チャートは厚さも薄く

また連続性に乏しい。いずれも層状チャートであり、白色ないし赤色を呈する。場所により著しく褶曲する。図示した以外にも、小ブロック状のチャートは多数散在する。

3-15 石灰岩 (*L*)

武生市大虫付近から八田へかけて分布する古期花崗岩中に、結晶質石灰岩の小レンズ状(?)岩体がいくつか散在する。

4. 深成岩

4-1 花崗岩質岩石 I (*Gy*)

本岩石は天王川周辺から北方へかけて、かなり広い範囲に分布する。概ね中～細粒、時に粗粒で、新鮮かつ淡紅色～灰白色を呈する。斑状組織をもち、場所により岩相が変化する。長石・石英を主とし、黒雲母などの有色鉱物は少い。斑状花崗岩又は花崗斑岩と呼ぶべき岩石で、一部半花崗岩的な部分も含まれる。周囲の面谷流紋岩に貫入して接触変質(珪化、陶石化)を与えている。

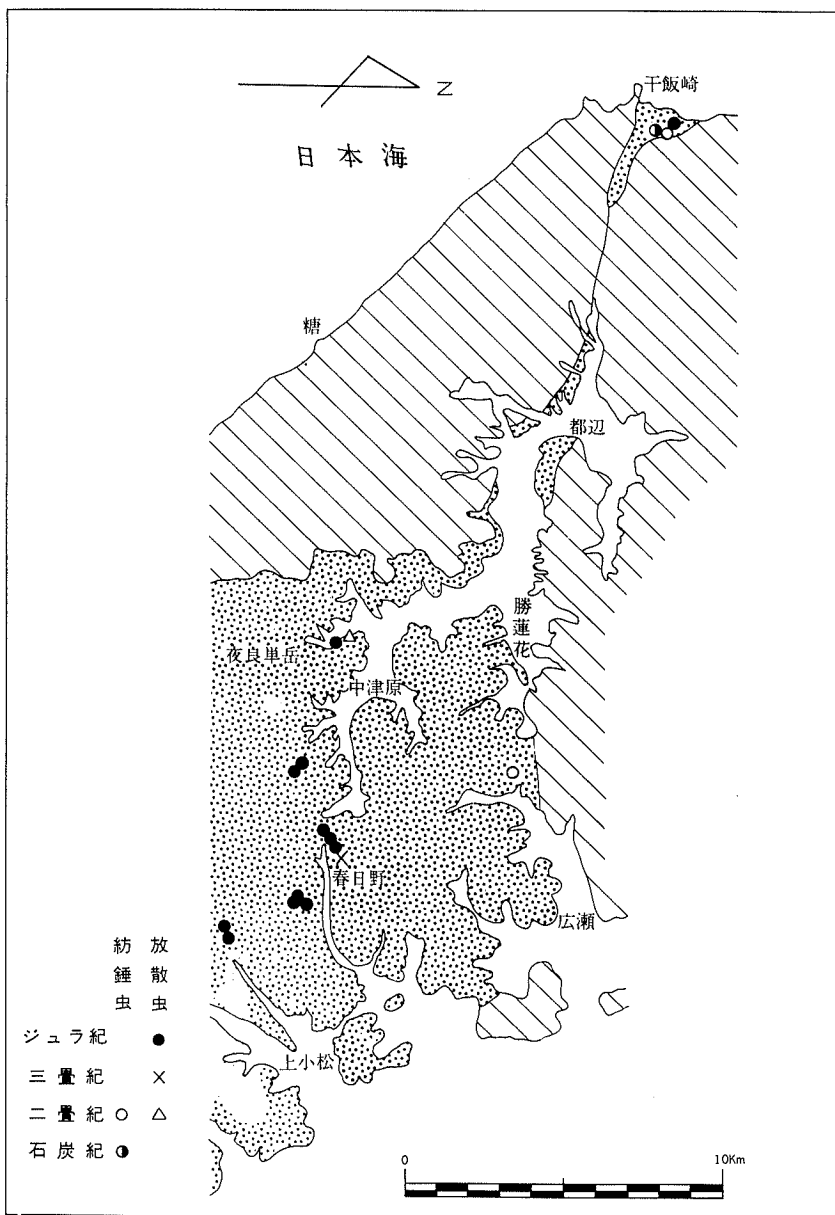
4-2 花崗岩質岩石 II (*Go*)

村国山付近から、大虫・八田にかけて分布し、古期花崗岩(船津型花崗岩)に属すると考えられている。黒雲母・石英・長石からなり、一部に角閃石、桃色のアルカリ長石を含むことがある。やや変質が進んでおり、ルーフ状に残存した、再結晶の著しい石灰岩及び砂質変成岩が点在する。

4-3 閃緑岩質岩石 (*Di*)

武生市白崎西方の尾根筋に、僅かに分布する。閃緑岩質な部分、花崗岩質な部分及び角閃岩に近い部分があり、その岩相は著しく変化に富む。

図1 図幅地域内における古生代および中生代化石の産出地点とその種類



資 料

- 1) 福井県(1966) : 福井県水理(地下水)地質図及び同説明書。
- 2) " (1969) : 福井県地質図及び同説明書。
- 3) 服部勇・吉村美由紀(1979) : 美濃帯北西部南条山地における古生代緑色岩・石灰岩塊を含む地層の産状と分布。福井大教育紀要Ⅱ, 29, 1-6。
- 4) "・" (1982) : 福井県南条山地における主要岩相分布と放射虫化石。大阪微化石研究会, 特別号No. 5, 103-116。
- 5) 北陸第四紀研究グループ(1969) : 北陸地方の第四系。「日本の第四系」, 第四紀総合研究会編。
- 6) 経済企画庁(1971) : 土地分類基本調査「福井」5万分の1 国土調査,
- 7) 小村良二(1982) : 福井県丹生山地天王川流域の水系変化-河岸段丘による検討-。地調月報, 33巻, 3号, 133-140。
- 8) 三浦 静(1979) : 北陸地方新第三系下部の火山層序について, 地質学論集, 16号, 149-155。
- 9) 通産省(1967) : 昭和42年度広域調査報告書「中竜地域」及び同地質図。
- 10) 吉田森・吉川文次・宮越栄蔵(1939) : 越前丹生山地の地形(I)。地理教育, Vol. 30, No. 6, 63-73。

Ⅲ 土 壤 図

1. 山地、丘陵地の土壤（台地を含む）— 林地土壤 —

(1) 概 説

当図幅内に出現する林地土壤は、主として中・古生層、中生代の新・古期花崗岩類と足羽層・流紋岩類、新第三紀の火山岩および火山性碎屑岩、第四紀の洪積層等を母材として広く褐色森林土が分布し、他に小面積であるが黒ボク土と赤色土が点在している。

これらの土壤は土色、母材、堆積様式、断面形態により表1に示すように4土壤群、4土壤統群、19土壤統に区分された。

(2) 各 論

ア 黒ボク土

火山灰に起因していると思われる土壤で、低山地の緩斜面等に局所的に分布している。本図幅には安田統がある。

(ア) 安田統 (Yas)

武生市の西南部をはじめ、図幅一帯の低山地緩斜面に点在して分布するが小面積ずつ局所的であるため殆んど図示できない。この土壤が火山灰を母材とするか否かは断定できない。形態的特徴は黒色のA層が20~30cmと比較的浅く、また黒味が少ない。粒径組成は均一でち密である。一部スギの造林地も見られるが成長は普通である。

イ 乾性褐色森林土壤（赤褐色を含む）

この土壤群は主に斜面の上部、尾根筋、凸型斜面、台地の辺縁部など水分の供給の少ない所や風衝地等地形的に乾燥しやすい所に分布する。有機物は分解しにくく、有機物層(A₀層)は厚くA層は薄くB層との境界は明瞭でA層からB層にかけて堅果状、塊状、粒状等堅い構造がみられ、養分の乏しい生産力の低い土壤である。

これらは林野土壤分類(1975)のB_A, B_B, B_C, rB_A, rB_B, rB_C型に相当する土壤で、本図幅には主に土壤母材の違いによる次の8統がある。

(ア) 金毘羅山1統 (Kpr-1)

六所山付近の山頂，尾根等の乾燥しやすい所に分布する。一般に土層が浅く新第三紀の各種凝灰質岩，あるいは流紋岩質安山岩の岩石を母材とする埴質壤土で，山頂部は雑木広葉林低木林として放置されている。

(イ) 天下1統 (Tga-1)

図幅南西部の河野村，武生盆地北西部の宮崎村，北東部の文珠山，三里山等の山頂および尾根に分布し，特に北西部の低山地に広く分布する。新第三紀の流紋岩質，安山岩質の岩石を母材とする埴質壤土ないし埴土である。一般に林地として生産力は低く，特に三里山や宮崎村一帯は土層が浅く，天然生のアカマツ林や雑木広葉樹林になっている。

(ウ) 鬼ヶ岳1統 (Onid-1)

越前町付近，鬼ヶ岳，日野山周辺の山頂，尾根等の乾燥しやすい所，特に鬼ヶ岳，日野山周辺に広く分布する。一般に土層が浅く中生代の流紋岩質岩石（西谷流紋岩類）を母材とする埴質あるいは埴質壤土である。林地としては生産力が低く多くは雑木広葉樹林として放置されている。

(エ) 熊谷1統 (Kmad-1)

天王川周辺部から北部にかけて山頂あるいは尾根等乾燥しやすい所，あるいは低平な緩斜面にかなりの面積で分布する。中生代の花崗岩類を母材とする微砂質から壤質な土壤でA層は欠くか薄く，B層は堅くち密である。林地としては生産力は低く，大部分がコナラを混じえた雑木広葉樹林になっている。

(オ) 村国1統 (Mrak-2)

日野山の一部と村国山および武生市大虫町付近から宮崎村八田へかけての山頂，尾根等乾燥しやすい所に分布する。中生代の古期花崗岩（舟津型花崗岩）を母材とする微砂質から壤質な土壤で，A層は薄くB層は堅くち密である。林地としては生産力が低く，アカマツを混じえた雑木広葉樹林になっている。

(カ) 矢良巢岳1統 (Yras-1)

図幅南部にある矢良巢岳西側の山頂，尾根部および低平な緩斜面に分布し，土層は浅く新第三紀の流紋岩質岩石（西谷流紋岩類）を母材とした埴質な土壤である。林地として生産力は低く，アカマツを混じえた雑木広葉樹林になっている。

る。

(キ) 春日野 1 統 (Ksgno-1)

武生市春日野町付近の斜面上部から尾根、山頂にかけて分布する。中・古生層を母材とした土壤で埴質壤土から壤土ないし砂質壤土である。A層の発達が悪く林野土壤分類の B_B 型土壤に相当するものが多い。林地としての生産力は低く雑木広葉樹林の中にアカマツが侵入している。

(ク) 宿堂 1 統 (Shku-1)

吉野瀬川上流および天王川沿の河岸段丘高位面(台地)の乾燥しやすい所に分布する、第四紀更新世の礫、砂、泥を母材とした埴質土で、普通よりB、C層の赤味の強い赤褐系の土壤も見られる。地理的にも便利の良さもありスギの植林もみられるが、一般に林地の生産力は低く天然生のアカマツを混じえた雑木広葉樹林も多い。

ウ。褐色森林土壤(赤褐系を含む)

この土壤群は、谷筋や凹型斜面等の水分条件の良い所に分布する。有機物の分解が良いので有機物層(A_0 層)は発達せず、A層は黒褐色を呈して割合厚く、B層に漸変している。A層上部には軟かい団粒構造が発達し、種々の条件に恵まれた耕地として生産力の高い土壤である。これらは林野土壤分類の B_D 、 $B_{D(d)}$ 型土壤に相当するが、ここではややB、C層の色調の赤味が強い γB_D 、 $\gamma B_{D(d)}$ 型土壤も含め、また以上の土壤と連続して出現するが小面積で図示できない弱湿性、湿性褐色森林土壤(B_E 、 B_F 型)をも含めて表現した。本図幅にはこれら土壤の母材の違いによる次の8統がある。

(ア) 金比羅山 2 統 (Kpr-2)

母材は金比羅山 1 統と同じで、金比羅山 1 統の分布地域の斜面中腹から谷筋にかけて林野土壤分類の B_D 型に相当する土壤が、やや安定した山頂や尾根、および緩斜面、斜面上部等の凸型斜面等に $B_{D(d)}$ 型土壤が出現する。 B_D 型土壤には立派なスギ人工林が見られ、林地として生産力の高い土壤であるが、やや乾燥気味の $B_{D(d)}$ 型土壤は生産力は少し劣りアカマツ、クロマツ(海岸沿)、や雑木広葉樹林が多く、条件の良い所にはスギの人工林が見られる。

(イ) 天下2統 (Tga-2)

母材は天下1統と同じで、その天下1統の分布地域において特に新第三紀の流紋岩質岩石を母材とする土壤は斜面下部から谷筋にかけて、安山岩類を母材とする土壤は斜面下部から谷筋、場所によっては斜面上部からやや安定した山頂や尾根等凸形斜面に出現する。林地としての生産力は比較的高く、この地域のスギ人工林の多くが分布する。

(ウ) 鬼ヶ岳2統 (Onid-2)

母材は鬼ヶ岳1統と同じで、その鬼ヶ岳1統の分布地域の斜面下部から谷筋にかけてと、谷頭部に出現する匍行～崩積土で、林野土壤分類の $B_{D(d)} \sim B_F$ 型が連続して分布する。多くはスギ人工林となっているが、この土壤は日野山南側斜面と、日本海に面した越前町付近の急斜面に広く分布し、後者は土壤の形態的特徴としての堅果状構造の発達など日本海の季節風の影響がみられる。

(エ) 熊谷2統 (Kmad-2)

母材は熊谷1統と同じで、その熊谷1統の分布地域の斜面下部から谷筋にかけて、また谷頭の山腹斜面に出現する埴壤土から壤土および砂質壤土の匍行～崩積土で、A層の腐植はやや少ないがスギ植栽さされており、立派なスギ林も見られる。

(オ) 村国2統 (Mrak-2)

母材は村国1統と同じ中生代の古期花崗岩で、村国1統より斜面下部から谷筋の水分条件のよい所に出現する匍行土と崩積土である。当図幅内では人里が近いので比較的にスギの植林地が多く、大虫付近と村国山東側斜面に立派なスギの成林も見られる。

(カ) 矢良巢岳2統 (Yras-2)

矢良巢1統と同じ母材で、矢良巢1統の分布地域の谷頭および斜面下部から谷筋にかけて出現する匍行土と崩積土である。面積の広がり是比较的に少ないが、土層の軟かい谷頭では一部立派なスギ林が見られる。

(キ) 春日野2統 (Ksgno-2)

春日野1統と母材および分布地域は同じで、谷頭および斜面下部から谷筋にかけて、やや比高の大きい斜面等に広く出現する埴土から埴壤土、壤土の匍行

と崩積土である。スギの植林地が多いが埴質な土壤は林地としての生産力はあまり高くない。埴壤土から壤土にかけてはかなり立派なスギの成林が見られる。

(ク) 宿堂2統 (Shku-2)

宿堂1統と母材および分布地域は同じで、河岸段丘高位面(台地)の水分環境や母材の条件のよい所に出現する。大部分は手入れのよいスギ人工林になっている。

エ. 赤色土壤

この土壤群は低山帯における丘陵頂部の緩斜面や高位段丘面、盆地周辺部などに分布する。特徴は淡色の薄いA層、赤褐色ないし明褐色のB層およびC層を有し、一般に埴質で堅密な土層をしている。本図幅には土壤母材の違いによる次の2統がある。

(ア) 王子保統 (Osh)

武生市王子保地区の平野部に突き出している低山の小尾根に、小面積で局所的に出現する土壤で、これは中・古生層の砂岩を母材としている。A層の発達が悪く、やや腐植で汚れた暗赤褐のA-B層と赤褐のC層を持つ埴質ですこぶる堅密な土層で、スギが植林されているが乾燥しており林野土壤分類のR_Bに相当し成長はあまり良くない。

(イ) 中津原統 (Nakt)

武生市都辺から中津原にかけて小面積ではあるが局所的に、中・古生代の輝緑岩を母材として出現する。うすいA層は赤味が強く、またB層、C層は明褐色を呈し、埴質で堅密である。地形的に林野土壤分類のB_BおよびB_{D(d)}型の出現する箇所に見られ、一部スギが植林されているがアカマツを混じえた雑木広葉樹林が多い。

参 考 文 献

- 1) 福井県(1969): 15万分の1, 福井県地質図, 同図幅説明書
- 2) 林野弘済会(1982): 林野土壤のしらべ方とその性質(農林水産省林業試験場土壤部監修・森林土壤研究会編)
- 3) 農林省林業試験場(1975): 林業試験場研究報告第280号(林野土壤の分

類)

- 4) 経済企画庁(1971): 土地分類基本調査「地形, 表層地質, 土じょう」
福井
- 5) 福井県(1975): 福井県民有林適地・適木調査説明書(丹南地区Ⅰ)付5
万分の1土壤図
- 6) 福井県(1976): 福井県民有林適地・適木調査説明書(丹南地区Ⅱ)付5
万分の1土壤図
- 7) 福井県(1977): 福井県民有林適地・適木調査説明書(福井・坂井地区)
付5万分の1土壤図

(福井県総合グリーンセンター 上野直之)

表-1 山地・丘陵地の土壤(林地土壤)一覧

土 壤 群	土 壤 統 群	土 壤 統
黒 ボ ク 土	黒 ボ ク 土 壤	安 田 統
乾性褐色森林土	乾性褐色森林土壤	金 毘 羅 山 1 統 天 下 1 統 鬼 ケ 岳 1 統 熊 谷 1 統 村 国 1 統 矢 良 巢 岳 1 統 春 日 野 1 統 宿 堂 1 統
褐 色 森 林 土	褐 色 森 林 土 壤	金 毘 羅 山 2 統 天 下 2 統 鬼 ケ 岳 2 統 熊 谷 2 統 村 国 2 統 矢 良 巢 岳 2 統 春 日 野 2 統 宿 堂 2 統
赤 色 土	赤 色 土 壤	王 子 保 原 統 中 津 原 統

2. 台地および低地の土壌（農地土壌）

(1) 概 説

図幅内での農地は、日本海岸には海岸段丘（供積）および山岳谷間の水積上に水田が分布し、一部第3紀堆積地帯はスイセン・ミカン畑になっている。一方、丹生山地、南条山地の河川段丘および天王川の水積堆積には水田が分布し、また、洪積の一部では、県営白山地区総合農地開発事業等によって約100haの畑地造成が行われた。さらに武生盆地は日野川およびその支流の水積上に水田が広く分布するが、その中心部は市街地となっている。

以上の農地土壌は、母材、堆積様式、土壌断面形態が非常に複雑であり、土壌型は7群、18土壌統群、33土壌統に区分された。

(2) 各 論

ア. 腐植質黒ボクグライ土（水田）

ア) 八木橋（0508・Ygh）

この土壌は表層に粘質な腐植土が堆積し、地下水位が全般に高く、グライ層になっている。一般に鉄含量が少なく、燐酸吸収力は台地の黒ボク土に比べ低いなどの特異性がある。本図幅内では武生市大手、宮谷、五分市、北町東部一帯に分布している。

イ. 細粒褐色森林土（畑地）

ア) 上 統（0603・Kmi）

この土壌は、残積世堆積で全層が粘質土である。土色は黄褐色を呈し、海岸段丘、および台地などに分布し、みかん園などに利用されている。

イ) 最上統（0607・Mgm）

この土壌は、洪積世堆積で全層が黄褐色土を呈し、土性は強粘質からなり土壌構造の発達が悪く、ち密な圃場が多い。本図幅では、武生市白山地区総合農地開発事業による造成畑の主要土壌型でスイカ、ダイコン、ハクサイが栽培されている。

ウ) 笠山統（0608・Ksy）

この土壌は、堆積様式、土色、分布、栽培作物等、最上統に準ずるが、土性が粘質で若干異なっている。造成に伴う土壌の切盛によって最上統、笠山統が、

混在している圃場も多い。

ウ．細粒灰色台地土（水田）

(ア) 小向統（0703・Kmk）

この土壤は、非固結堆積岩を母材とした洪積世および崩積堆積で全層灰～灰褐色土壤である。土性は全層強粘質土でち密な土層になっている。本図幅内では織田町、宮崎村の開田地帯の主要土壤型である。

(イ) 喜久田統（0705・Kik）

この土壤は、母材、堆積様式、土色等は小向統に準ずるが、土性は粘質土が堆積し、本図幅内では海岸地帯で谷間の崩積地などに分布している。

エ．礫質灰色台地土（水田、畑）

(ア) 塩田統（0712・Sho）

この土壤は、30～60cm以下に砂礫層を有し、土色は灰色～灰褐色を呈し、本図幅内では海岸段丘上に分布している。本土壤の土地利用は、一部開田であるが、主として畑地として利用されている。

オ．細粒グライ台地土（水田）

(ア) 歌代統（0802・Uta）

この土壤は残積、洪積、崩積世堆積であるが、地下水位が高く30cm以内からグライ層が出現する。本図幅内では、丹生山地、南条山地の谷間に分布する。

カ．細粒黄色土、斑文あり（水田）

(ア) 蓼沼統（1014・Tdn）

この土壤は、残積、洪積、崩積世のいずれかの堆積であり、土色は黄色～黄褐色を呈している。土性は、強粘質からなり、透水性が悪く、ち密土層になっている。

本図幅内では、織田町、宮崎村、旧白山村の河川段丘および山地崩積地（開田等）に分布している。

(イ) 江部乙統（1016）

堆積様式、母材、土色などは蓼沼統に準ずるが、土性が粘質土である。分布も蓼沼統に同じく、河川段丘、山地崩積地等にある。

キ．細粒灰色低地土灰色系（水田）

(ア) 藤代統（1304・Fjs）

この土壌は、非固結堆積岩の水積で全層が灰色を呈し、鉄含量の少ない老朽化土壌である。土性は粘質土からなり、日野川左岸の武生市街周辺に分布している。

ク．中粗粒灰色低地土灰色系（水田）

(ア) 加茂統（1307・Km）

堆積様式、母材、土色等は、藤代統に準ずるが、土性は壤質からなる。本図幅内では日野川周辺に主として分布し、一部では畑転換（野菜）として利用されている。

ケ．礫質灰色低地土灰色系

(ア) 追子野木統（1311・Okk）

堆積様式、母材、土色等は、藤代統に準ずるが、土性は壤質～砂質で礫層が30～60 cm以下にある。鉄の溶脱がみられ、老朽化土壌が多い。

(イ) 国領統（1312・Kok）

この土壌は、追子野木統よりも礫層の位置が浅く30 cm以内から出現するため作土深が浅く、保肥力も小さい土壌である。

コ．細粒灰色低地土、灰褐色系（水田）

(ア) 多々良統（1316・Ttr）

この土壌の堆積様式、母材は藤代統に準ずるが、土色は灰褐色を呈し、土性は粘質土からなる。作土下にマンガンの集積層（結核）が認められ、主な分布は鯖江市北部、日野川下流周辺および浅水川周辺である。

カ．中粗粒灰色低地土灰褐色系（水田）

(ア) 安木統（1317・Ysk）

この土壌の土色は灰褐色を呈し、土性は壤質土からなり、マンガンの結核は認められない。

(イ) 善通寺（1318・Znt）

この土壌は、土色、土性は、安木統に準ずるが、作土下にマンガン集積（結核）が認められる。主な分布も安木統に準じ、日野川周辺である。

シ. 礫質灰色低地土灰褐色系(水田)

(ア) 松本統(1321・Mtm)

この土壌の土色は多々良統に準ずるが、30～60 cmから砂礫層を有する。本図幅内での主な分布は、日野川上流域の一部および日野川左岸で、旧日野川河床跡である。

(イ) 栢山統(1322・Kay)

この土壌は、30 cm以内から砂礫層を有する。本図幅内では旧文室川河床跡に一部分布し、マンガン集積層を有する。

ス. 細粒強グライ土(水田)

(ア) 富曾亀統(1401・Fsk)

この土壌は、非固結堆積岩を母材とした水積堆積であり、地下水位が一般に高く30 cm以内からグライ層を有する。土性は強粘質土からなり、斑鉄が少ない湿田土壌である。

(イ) 田川統(1402・Tgw)

この土壌の母材、堆積様式、土性は富曾亀統に準ずるが、30 cm以下まで斑鉄が認められる。本図幅内での主な分布は、鯖江市街と浅水川に囲まれた地帯および文殊山西側に分布している。

(ウ) 西山統(1403・Nsh)

この土壌の母材・堆積様式は富曾亀統に準ずる。土性が粘土質からなりグライ層は作土直下～30 cm以内から出現し、斑鉄の生成は少ない。本図幅内では丹生山地谷間の水積地帯に分布する。

(エ) 東浦統(1404・Hgs)

この土壌は、西山統に準ずるが、斑鉄が30 cm以下まで沈積していることが特徴である。本図幅内では最も分布面積が多く、日野川左岸および丹生山地の谷間、今立町などに分布している。

セ. 中粗粒強グライ土(水田)

(ア) 芝井統(1405・Shb) ・ (イ) 滝尾統(1406・Tko)

この土壌は壤質土からなり、芝井統は斑鉄が少なく、滝尾統は斑鉄が30 cm以下まで沈積している。本図幅内では、谷間水田や、小河川周辺などに分布して

いる。

ソ. 礫質強グライ土（水田）

(ア) 竜北統（1413・Ryu）

この土壌は、30cm以内から砂礫層を有する強グライ土であり、斑鉄の少ない土壌である。分布は日野川右岸で武生市北町から三ツ屋を経て高木町に至る、旧日野川河床筋に広く分布し、山間谷間の小河川氾らん跡などにも堆積している。また、圃場整備等で畦裏湧水がみられる水田が多いが、湧水時はこの土壌型が多い。

(イ) 大州統（1414・Os）

この土壌の断面型態は、竜北統に準ずるが、非かんがい期の地下水位が低く斑鉄が30cm以下まで伸びている。分布は旧河床上に帯状に存在するが、竜北統から国領、栢山統に変化する中間的な土壌型で、本図幅内では一部にしか分布していない。

タ 細粒グライ土（水田）

(ア) 保倉統（1415・Hkr）

この土壌の母材は非固結堆積岩の水積堆積で土性は強粘質土からなり、地下水位がやや低く、グライ層の位置は30～80cm以下から出現する土壌型である。

地下水位の変動により、さきの富曾亀統から田川統に変わり、さらに保倉統から金田統（灰色低地土）に土壌型が変化する。本図幅内での分布は、鯖江市中河の鞍谷川と浅水川に囲まれた地帯、および吉川地区の一部に分布している。

(イ) 千年統（1418・Cht）

この土壌は、土性が粘質土であるが、そのほかは保倉統に準じ、本図幅内では主に日野川下流域に分布している。

(ウ) 三隅下統（1420・Mis）

この土壌は、千年統と同じく、土性が粘土質からなるが、下層にマンガン斑またはマンガン集積層が認められる。分布は、文室川水積の武生市杉崎、北町東側に分布する。

チ 中粗粒グライ土（水田）

(ア) 上兵庫統（1422・Khy）

この土壌はグライ層が30～80 cmから出現する。土性は壤質土からなり、斑鉄の生成が多い。主な分布は、旧河川周辺などに堆積している。

(イ) 八幡統 (1423・Ywt)

グライ層の位置は、上兵庫統に準ずるが、下層に砂層を有する土壌で、旧河床跡、旧河川支流に分布する。

ツ。グライ土下層有機質(水田)

(ア) 下谷地 (1430・Syj)

この土壌は、下層に泥炭層(植物遺体の集積)を有し、地下水位が高い土壌である。本図幅内では、村国山北側、鯖江舟津東部など小面積に分布している。

参 考 文 献

- 1) 農林省農業技術研究所化学部土壌第3科(1977・1983)
: 土壌統の設定基準および土壌統一覧表
- 2) 農林省農内局(1978) : 地力保全対策要綱
- 3) 福井県農業試験場(1978) : 地力保全基本調査総合成績書
および土壌図
- 4) 福井県農業試験場(1959) : 施肥改善事業調査研究成績書
- 5) 武生市(1958～1965) : 土壌調査成績書および土壌図
- 6) 福井県(1979) : 福井県地質図幅説明書および地質図
- 7) 福井県農業試験場(1967) : 土壌肥料に関する調査研究成績書
- 8) " (1969) : 土壌肥料に関する調査研究成績書
- 9) " (1970) : 土壌肥料に関する調査研究成績書

(福井県農業試験場 宮松一夫, 友広啓二郎, 斉藤正志)

表一 2 台地および低地の土壌の分類基準と土壌統

土壌群	土壌統群	土壌統	土壌統番号	土壌統の内容	母材	堆積様式	主な土地利用
黒ボクグライ土	腐植黒ボクグライ土	八木橋統	0508	表層腐植層 グライ化 強粘～粘質 K2～K3	非固結火成岩 非固結堆積岩	水積	畑
褐色森林土	細粒褐色森林土	上統	0603	全層黄褐色 粘質土	固結堆積岩	残積堆積	畑
		最上統	0607	強粘質土	非固結堆積岩	洪積世堆積	〃
灰台地土	細粒灰色台地土	笠山統	0608	粘質土	〃	〃	〃
		小向統	0703	全層、灰～灰褐色 強粘質土	〃	洪積世崩積	水田
		喜久田統	0705	粘質土	〃	〃	〃
グライ台地土	礫質灰色台地土	塩田統	0712	30～60cm以下 礫層 壤～砂質	〃	〃	水田 畑
	細グライ台地土	歌代統	0802	青灰質、作土直下 グライ粘土質	〃	〃	水田
黄色土	細粒黄色土 斑文あり	蓼沼統	1014	黄～黄褐色 強粘質 Mnなし	〃	〃	〃
		江部乙統	1016	粘質 Mnなし	〃	〃	〃

土壌群	土壌統群	土壌統	土壌統 番号	土壌統の 内容	母材	堆積様式	主な 土地 利用
灰 低 地 土 色	細粒灰色低地土系 灰	藤代統	1304	全層灰色, 粘質土 Mnなし	非固結堆積岩	水積	水田
	中粗粒灰色低地土系 土, 灰色	加茂統	1307	" 壤質土 "	"	"	"
	礫質灰色低地土系 灰	追子野木統	1311	30~60cm 礫質 "	"	"	"
		国領統	1312	30cm以内 礫質 "	"	"	"
	細粒灰色低地土系 灰 褐色	多々良統	1316	全層灰褐色 粘質 Mnあり	"	"	"
	中粗粒灰色低地土系 土, 灰 褐色	安木統	1317	" 壤質 Mnなし	"	"	"
		普通寺統	1318	" " Mnあり	"	"	"
	礫質灰色低地土系 灰 褐色	松本統	1321	30~60cm 礫質 "	"	"	"
		栢山統	1322	30cm以内 礫質 "	"	"	"

土壌群	土壌統群	土壌統	土壌統番号	土壌統の内容	母材	堆積様式	主な土地利用
グライイ土	細強グライイ土	富曾亀統	1401	作土直下青灰色, 強粘質 斑紋なし	非固結堆積岩	水積	水田
		田川統	1402	" " " あり	"	"	"
	中強グライイ土	西山統	1403	" " 粘質 " なし	"	"	"
		東浦統	1404	" " " あり	"	"	"
	中強グライイ土	芝井統	1405	" " 壤質 " なし	"	"	"
		滝尾統	1406	" " " あり	"	"	"
	礫強グライイ土	竜北統	1413	" " 30cm以内 礫層 " あり	"	"	"
		大州統	1414	" " " " なし	"	"	"
	細粒グライイ土	保倉統	1415	30cm以下 青灰色 強粘質 Mnなし	"	"	"
		千年統	1418	" " 粘質 " "	"	"	"

土壌群	土壌統群	土壌統	土壌統番号	土壌統の内容	母材	堆積様式	主な土地利用
グライイ土	中粗グライイ土	三隅下統	1420	30cm以下青灰色粘質 Mnあり	非固結堆積岩	水積	水田
		上兵庫統	1422	" 壤質 Mnなし	"	"	"
	下層有機質	八幡統	1423	" 砂質 "	"	"	"
		下谷地統	1430	作土直下青灰色 壤質 30cm以下泥炭層	"	"	"
7群	18統群	33統	—	—	—	—	

Ⅳ 土地利用現況図

1. 概説

本地域の土地利用を利用区分毎の面積でとらえたのが表3である。利用区分毎の構成比を地域の平均でみると、農用地13%，森林71%，水面・河川・水路が2%，道路が4%，宅地が4%，その他6%となる。

2. 各論

(1) 農地

武生市の白山地区では、総合農地開発事業に伴い、約70haの畑地造成が行なわれ、スイカ、ハクサイ、ダイコン、レタス等が栽培されている。

特に、白山スイカは、高地の粘土性の強い赤土で栽培されるため甘味が強く、「武生スイカ」として有名である。また、鴉ヶ平では、クリ園が造成されている。さらに、白山地区の丸岡町では、スギの採穂を行う育種園がある。この農地開発の一環として、湛水面積約3ha、総貯水量23万 m^3 の利水専用ダムの総ヶ谷ダムが建設され白山地区一帯のかんがい用水の供給を行っている。武生市の味真野地区では、寒冷で肥沃な土地を利用して特産の味真野杉の育苗が行われているほか、扇状地の扇央、扇頂では、ブドウの栽培が行なわれている。

宮崎村では、特産のタケノコの生産が広域的に行われているほか、樫津の付近では、ナシ、カキ等の果樹園がある。織田町の桜谷では、茶畑が広がっており、栽培面積では全県の約30%を占めている。朝日町の小倉、上糸生、横山付近に広がる畑では、スイカ、ブドウ、クリの栽培が行われている。

一方、日本海に面した越廼村では、赤坂、八ツ俣一帯の斜面では水田となっているほか急斜面を利用した本県特産のスイセン栽培が行われている。また、越前町の梨子ヶ平、血ヶ平、梅浦の北東、茂原、六呂師、米ノ等でも水田がみられるがそのほかの段丘上は畑、あるいはみかん畑となっている。

表一3 土地利用現況面積

(単位:ha, %)

区分	農用地		用地		森林	原野	水面・河川・水路	道路	宅地				合計	
	農地	採放牧地	計	計					住宅地	工場用地	事務所店舗等の宅地	計		その他
市町村	8,552 (25.2)	—	8,552 (25.2)	8,552 (25.2)	16,659 (49.1)	—	1,260 (3.7)	2,017 (6.0)	2,481 (7.3)	318 (0.9)	614 (1.8)	3,413 (10.0)	2,021 (6.0)	33,922 (100)
福井市	3,971 (21.5)	—	3,971 (21.5)	3,971 (21.5)	11,220 (60.7)	—	488 (2.6)	797 (4.3)	1,015 (5.5)	191 (1.0)	81 (0.4)	1,287 (6.9)	735 (4.0)	18,498 (100)
武生市	2,640 (31.4)	—	2,640 (31.4)	2,640 (31.4)	3,201 (38.0)	—	436 (5.2)	677 (8.0)	877 (10.4)	242 (2.9)	36 (0.4)	1,155 (13.7)	314 (3.7)	8,423 (100)
鯖江市	655 (14.5)	—	655 (14.5)	655 (14.5)	3,096 (68.7)	—	81 (1.8)	149 (3.3)	182 (4.0)	32 (0.7)	44 (1.0)	258 (5.7)	269 (6.0)	4,508 (100)
今立町	630 (11.8)	—	630 (11.8)	630 (11.8)	4,099 (73.7)	—	159 (3.0)	191 (3.5)	94 (1.8)	12 (0.2)	2 (0.0)	108 (2.0)	159 (3.0)	5,346 (100)
南条町	89 (1.8)	—	89 (1.8)	89 (1.8)	4,662 (93.0)	—	3 (0.0)	113 (2.3)	21 (0.4)	0 (0)	2 (0.0)	23 (0.5)	123 (2.4)	5,013 (100)
河野村	742 (16.3)	—	742 (16.3)	742 (16.3)	3,130 (68.6)	—	63 (1.4)	173 (3.8)	134 (2.9)	27 (0.6)	23 (0.5)	184 (4.0)	267 (5.9)	4,559 (100)
朝日町	484 (14.3)	—	484 (14.3)	484 (14.3)	2,362 (69.9)	—	48 (1.4)	130 (3.8)	44 (1.3)	12 (0.4)	14 (0.4)	70 (2.1)	286 (8.5)	3,380 (100)
宮崎村	113 (3.1)	—	113 (3.1)	113 (3.1)	2,939 (80.3)	80 (2.2)	4 (0.1)	81 (2.2)	40 (1.1)	1 (0.0)	4 (0.1)	45 (1.2)	399 (10.9)	3,661 (100)
越前町	76 (5.2)	—	76 (5.2)	76 (5.2)	1,181 (80.9)	—	3 (0.2)	51 (3.5)	21 (1.4)	0 (0)	0 (0)	21 (1.4)	128 (8.8)	1,460 (100)
越廼村	429 (11.0)	—	429 (11.0)	429 (11.0)	2,909 (74.6)	—	42 (1.1)	157 (4.0)	70 (1.8)	10 (0.3)	2 (0.0)	82 (2.1)	282 (7.2)	3,901 (100)
織田町	1,152 (27.4)	—	1,152 (27.4)	1,152 (27.4)	2,209 (52.4)	—	136 (3.2)	214 (5.1)	120 (2.8)	7 (0.2)	2 (0.1)	129 (3.1)	372 (8.8)	4,212 (100)
清水町	19,533 (20.2)	—	19,533 (20.2)	19,533 (20.2)	57,667 (59.5)	80 (0.1)	2,723 (2.8)	4,750 (4.9)	5,099 (5.3)	852 (0.9)	824 (0.8)	6,775 (7.0)	5,355 (5.5)	96,883 (100)
地域計	49,796 (11.9)	251 (0.1)	50,047 (12.0)	50,047 (12.0)	310,957 (74.2)	172 (0.0)	11,895 (2.8)	11,941 (2.9)	10,265 (2.4)	1,757 (0.4)	1,496 (0.4)	13,518 (3.2)	20,408 (4.9)	418,938 (100)

資料：県地域振興課（土地利用現況調査・昭和56年度）

注：()内は構成比

(2) 林地

本地域では、表3のとおり福井市、鯖江市、清水町を除く各市町村の森林の占める面積は約70%から90%となっており、約 $\frac{2}{3}$ が森林におおわれている。

こうした森林資源を利用して、製材業が古くから各地で行われている。

一方、林産物をみると、朝日町では、しいたけ、栗の生産量が多く、宮崎村ではえのきだけが、また越廼村ではしめじの栽培が盛んである。

本地域の西部に位置する厨城山の山頂付近には、学術上価値の高いブナの群落がみられる。また、宮崎村では、タケノコ栽培を目的とした竹林が散在している。

本地域の西部丹生山地では、現在、森林資源の総合開発、山村の振興、国土保全を目的として、広域基幹林道越前西部線（総延長94km）の工事が進められている。

このうち武生市中津原町から河野村を経て越前町六呂師間を標高300m～500mの稜線を縫うように建設されている延長約23kmの1号線は、58年秋に開通し、今後観光資源としての活用も期待されている。

この丹生山地には、渡り鳥の観測を行う環境庁の鳥類観測ステーションが設けられているほか、豊かな森林を生かしたレジャー施設の整備も行われている。

(3) 都市・村落

武生盆地は、日野川の堆積作用により形成された肥沃な沖積平野であり、武生市、鯖江市などの丹南地域の中核都市ができあがった。

近年、都市近郊では土地区画整理が進むとともに住宅団地の造成が活発に行われている。また、縦横関係をはじめとする大規模な工業団地が造成されるなど田園都市構想に基づく都市建設が進められている。

そのほか、北陸自動車道の開通に伴い武生および鯖江インターチェンジが開設され、これまで以上に流通のネットワークが整備され、産業の発展さらに観光開発にも大きく寄与している。

地域の西側を占める丹生産地は河岸段丘が発達し、本県の他の山地とは異なった景観を呈している。この一帯では古くから良質の粘土を利用して瓦の製造が盛んに行われているとともに、陶芸も伝統産業として今日も、宮崎村を中心

として行われている。宮崎村にある県の窯業試験場一帯は、越前陶芸村として整備されている。

日本海に面する海岸線は国定公園に指定されており、奇岩が続く景勝地として、観光コースとなっている。

参 考 文 献

- 1) 福井県(1976)：福井県自然環境保全調査報告書
- 2) 福井県(1979)：第2回自然環境保全基礎調査(植生調査報告書)
- 3) 北陸農政局福井統計情報事務所(1981)：福井農林水産統計年表

(福井県 地域振興課)

昭和 5 9 年 3 月 印刷発行

土 地 分 類 基 本 調 査

鯖 江 ・ 梅 浦

編 集 発 行 福 井 県 企 画 開 発 部 地 域 振 興 課
福 井 市 大 手 3 - 1 7 - 1
電 話 (0 7 7 6) 2 1 - 1 1 1 1

印 刷 緑 川 地 図 印 刷 株 式 会 社
東 京 都 墨 田 区 吾 妻 橋 2 - 1 8 - 3